

鉱物資源研究一筋，須藤定久博士を偲んで

高木 哲一¹

元産総研主任研究員須藤定久博士は、2025年5月24日に病気のためご逝去されました。享年77歳でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

須藤定久博士は、1948年に赤城山麓の群馬県佐波郡赤堀村（現伊勢崎市）にお生まれになりました。1971年3月に群馬大学教育学部特別理科（地学専攻）を卒業され、同年4月に工業技術院地質調査所に入所されました。鉱床部非金属課に配属され、以後、工業原料鉱物を中心とする鉱物資源研究に生涯を捧げられました。1985年に「日本のロウ石鉱床の成因的研究」により東北大学にて理学博士の学位を、2005年には技術士の資格を取得されました。地質調査所・産総研では、資源解析課長（1995-2000）、鉱物資源研究グループ長（2001-2003）を務められ、定年退職された2008年以降も、契約職員として精力的に研究を継続されました。学協会活動では、日本セラムックス協会理事・原料部会長（2004-2005）、茨城県砕石事業協同組合顧問（2008-2014）、経済産業局中小鉱山合理化指導員、同骨材対策委員会委員、日本コンクリート工学会、セメント協会の各種委員会委員等を歴任されました。また、2010年に骨材資源工学会「萩原賞」を受賞されました。

研究業績は、50万分の1鉱物資源図全8葉（1998-2005）、20万分の1陸域地質図9葉（1991-2007）、骨材資源調査報告書全5冊（2004-2008）、地質ニュースに27回にわたり連載された砂と砂浜の地域誌（2005-2010）など、和文誌を中心に360編に及びます。著書として、日本の砕石資源（2001年、日本砕石協会）、世界の砂図鑑（2015年、誠文堂新光社）が出版されています。

須藤博士の研究スタイルは、徹底した露頭・切羽の観察、図面作成、系統的サンプリングと試料分析に基づく鉱床形成モデルの構築でした。その卓抜した職人技は、鉱山会社の技術者をして「人間探査マシン」「露頭の虫」と言わしめるほどで、現場に即した指導には鉱業界から厚い信頼が寄せられていました。また、示差熱・重量分析、X線回折分析に精通しており、実験室にて多数の試料を黙々と分析する姿が、今でも目に焼き付いています。

筆者は生前の須藤博士から、須藤ほか（2023）の続編と



鉱山で若手研究員を指導する在りし日の須藤定久博士。

して、遺稿ともいべき報告の原稿3編をお預かりしていました。須藤博士の多大な功績を偲びつつ、この原稿を元に修正・再構成した記事をGSJ地質ニュース誌にて公表させていただく予定です。これからの鉱物資源研究の一助になれば幸いです。

文 献

須藤定久・宮腰久美子・高木哲一（2023）愛知県瀬戸地区の窯業原料資源の成因に関する考察—その1・その多様性を考える—。GSJ地質ニュース，12，72-76。

TAKAGI Tetsuichi (2026) In memory of Dr. SUDO Sadahisa, who dedicated his life to the study of mineral resources.

（受付：2026年6月11日）

¹ 株式会社 AIST Solutions，元地圏資源環境研究部門